審査の結果の要旨

氏名　　副島　尭史

本論文の目的は、1）成人期小児がん経験者における職務パフォーマンスの実態を明らかにする、2）成人期小児がん経験者の職務パフォーマンスにおける関連要因として、特に疲労感、心的外傷後ストレス症状（PTSS）、家族機能、職場の疾患理解に着目し、その関連を明らかにすることである。関東地方・九州地方の大学病院・小児専門病院 4 施設の小児科外来および血液・腫瘍科外来に通院している成人期小児がん経験者を対象にアンケート調査を実施した。成人期小児がん経験者における職務パフォーマンスの実態を明らかにするために、Welch の検定を用いて、本研究における成人期小児がん経験者と先行研究における一般就労者間で職務パフォーマンスを比較した。また、職務パフォーマンスに対する疲労感、心的外傷後ストレス症状（PTSS）、家族機能、職場の疾患理解の関連を明らかにするために、階層的重回帰分析を行った。

その結果、下記の 3 点が明らかになった。

1. 成人期小児がん経験者の職務パフォーマンスは、一般就労者と同等もしくは一般就労者より良好であった
2. 成人期小児がん経験者の職務パフォーマンスは、疲労感・心的外傷後ストレス症状（PTSS）が強いほど低下し、家族機能が良好であるほど向上した
3. 職場の疾患理解は、成人期小児がん経験者の職務パフォーマンスと直接的に関連しなかったが、PTSS が職務パフォーマンスに与える影響を緩衝した

本論文の結果より、成人期小児がん経験者の職務パフォーマンスは、一般就労者の職務パフォーマンスと同等もしくは良好である可能性を示唆した。また、成人期小児がん経験者の職務パフォーマンに疲労感・PTSS・職場の疾患理解だけでなく、家族機能も関連することを示し、成人期小児がん経験者の家族機能にアプローチすることで職務パフォーマンスを改善することを示した。成人期小児がん経験者の職務パフォーマンスの実態および関連要因を明らかにした先行研究はなく、本論文より得られた知見は成人期小児がん経験者の就労支援を検討・開発していく上で、重要な貢献をなすと考えられ、学位の授与に値するものと考えられる。